

 住友金属鉱山
個人投資家の皆さまへ

住友金属鉱山株式会社 個人投資家向けIRセミナー

- ・ 銘柄略称：住友鉱
(東証プライム)
- ・ 銘柄コード：5713
- ・ 単元株式数：100株

<https://www.smm.co.jp/>



MINING THE FUTURE

2024.9.1

1

430年の歴史

住友グループの源流事業
を受け継ぐ会社

2

日常生活と経済発展
に必要不可欠

非鉄は成長産業

今後とも需要は↗

3

資源 × 製錬 × 材料

3事業連携

世界でも類を見ない
ユニークなビジネスモデル

4

世界の非鉄リーダーへ

サステナビリティを重視

5

健全な財務体質を維持しつつ
配当性向原則35%以上
下限はDOE1.5%

資源 × 製錬 × 材料で
未来をつくる

MINING THE FUTURE 



- I** 企業情報
- II** 事業紹介
- III** 成長戦略
- IV** サステナビリティ
- V** 業績・株主還元

創業 1590年 日本の上場企業で2番目に長い歴史

業績 (2023年度実績)

売上高 **1兆4,454**億円
 税引前利益 **958**億円
 当期利益 (※) **586**億円

財務体質 (2023年度末実績)

資産合計 **3兆277**億円
 資本合計 **1兆9,734**億円
 自己資本比率 **59.0%**

連結従業員数 **7,496**名 (2024年3月末)

時価総額 **1兆591**億円 (2024年8月9日時点)

世界**14**の国と地域、**9**つの鉱山、**8**か所の製錬所



写真提供：住友史料館

製錬

1590年（天正18年）創業

1500年

1600年

1700年

1800年



資源

1691年 別子銅山の稼行開始

1973年の閉山までの283年間
住友が運営



成長戦略の推進

材料

1960年代～
国内鉱山閉山
経営多角化

資源 積極的な海外鉱山権益の取得による資源確保

製錬 銅・ニッケルの競争力強化

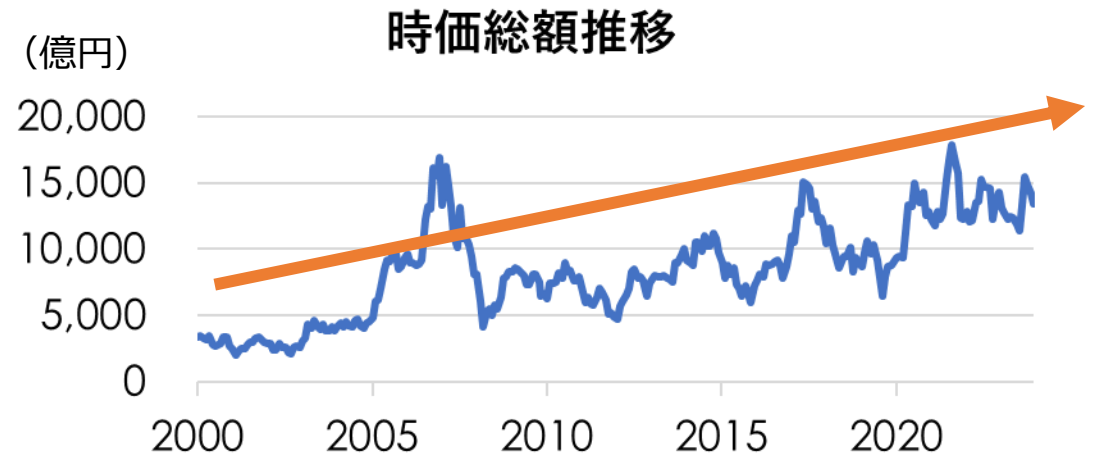
材料 車載用電池材料事業への進出と生産能力増強

1900年

2000年～

本業回帰（選択と集中）

1999年
JCO臨界事故
企業再生計画を
策定し再出発



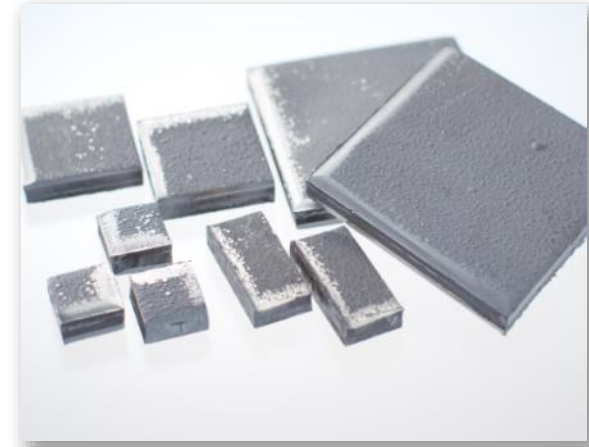
電気銅



金



電気ニッケル



世界経済の発展に必要不可欠な金属 (カーボンニュートラル実現への貢献も期待)

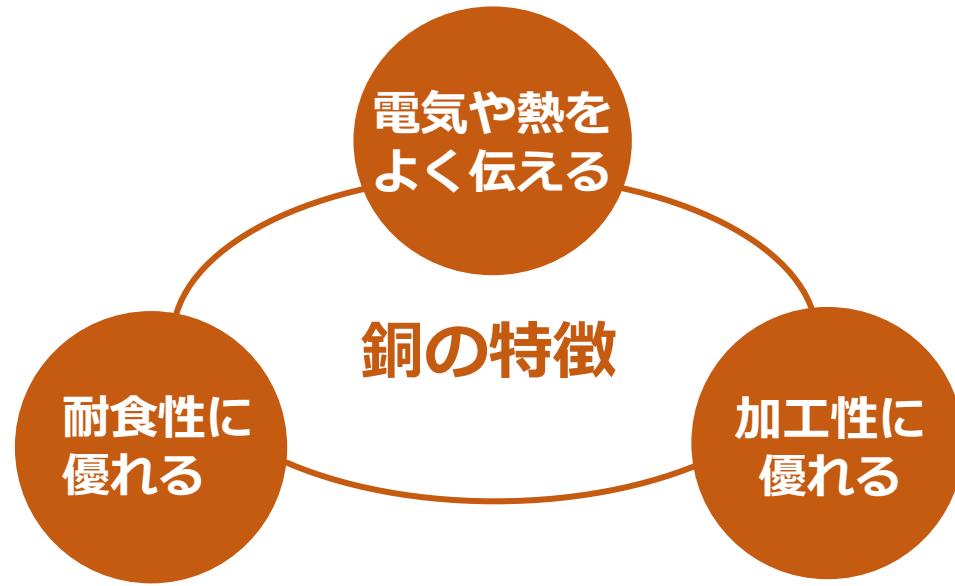


硫酸ニッケル

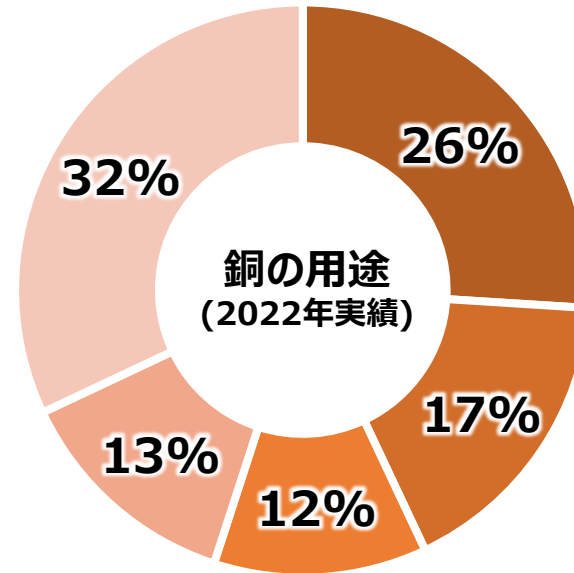


電気コバルト

“電気”銅、
“電気”ニッケル、
“電気”コバルトとは？
電気分解で精製された
純度の高い銅、ニッケル、
コバルトのこと。
純度は99.9%以上。



引き延ばされて銅線に



- 建築物
(水・ガス配管、屋根、室内装飾、配電線等)
- インフラ
(送電線、通信線)
- 産業
(変圧器、モーター、プラント機器等)
- 輸送
(自動車、鉄道、船舶等)
- その他

出典：The International Wrought Copper Council(IWCC) and the Inter National Copper Association (ICA)

電気があるところには、**銅** ほぼ必ず使われている

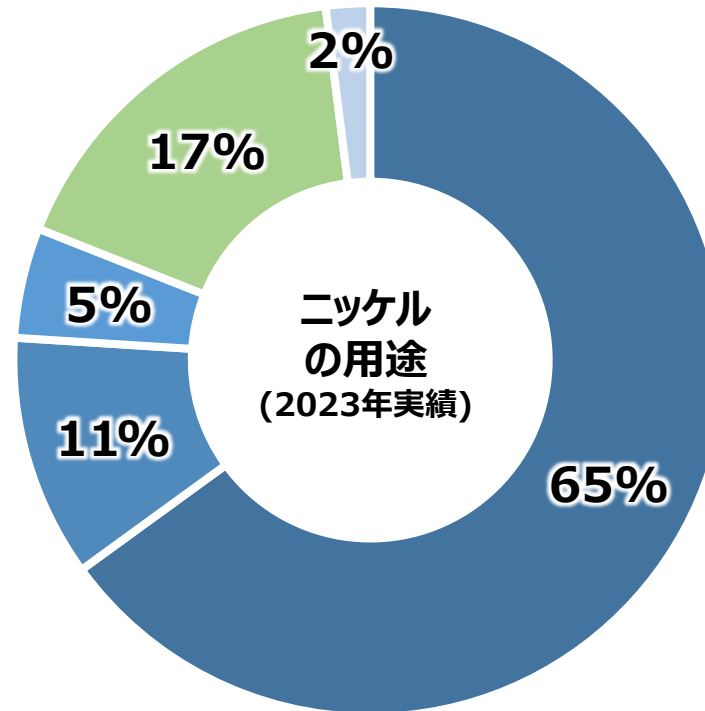


ニッケルの用途



耐食性に優れる/
電池材料としても注目

ニッケル



- ステンレス鋼
- 合金および鋼鉄・鋳造
- メッキ
- 電池
- その他

出典：S&P Global Market Intelligence (2024年6月10日)

3 事業連携 (資源×製錬×材料)

鉱石から電池材料まで
リサイクルを含め一貫した

自社ニッケルサプライチェーン



資源

原料を確保



製錬①

不純物を除去



製錬②

硫酸ニッケル
に加工

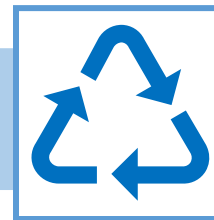


材料

電池材料 (正極材)
に加工

再資源化
(ニッケル以外にも銅、
コバルト、リチウムも)

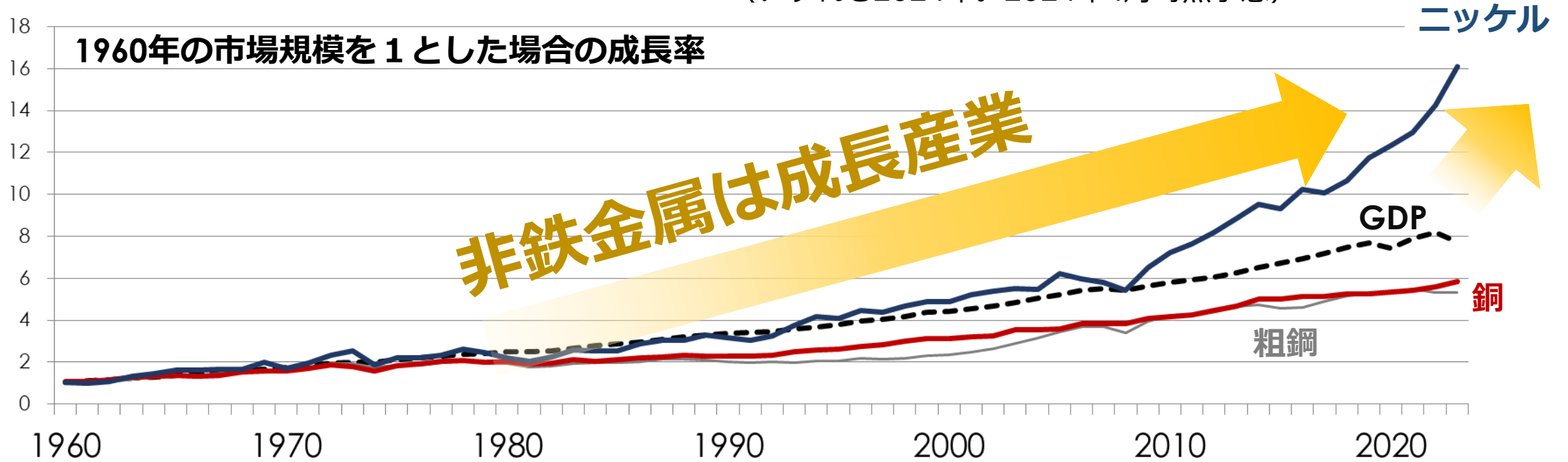
リサイクル
(製錬③)



世界でも類を見ない
独自のビジネスモデル

銅の年間市場規模：約2,800万トン

ニッケルの年間市場規模：約350万トン (いずれも2024年。2024年4月時点予想)



- 自動車の電装化や再生可能エネルギーの普及の進展により、銅の需要増加が見込まれる
- 電気自動車の需要には一服感がみられるが、電動化のトレンドは変わらず、電池正極材に使用されるニッケルの需要増加も見込まれる

- 電
動
車**
- EV 電気自動車
 - PHEV プラグインハイブリッド自動車
 - HEV ハイブリッド自動車

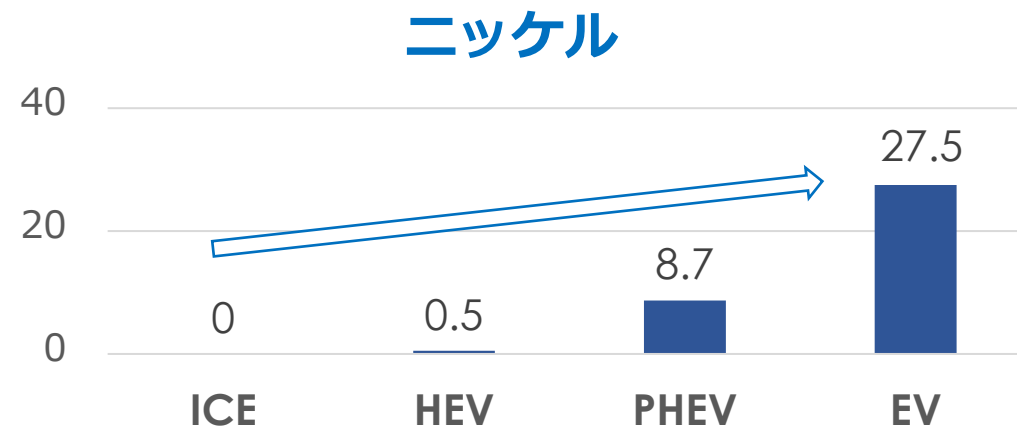
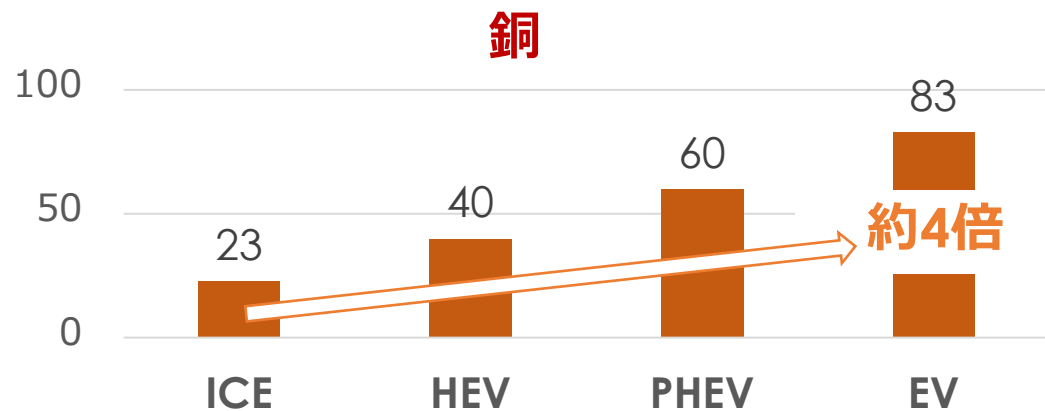
ICE 内燃機関車（ガソリン車）



- 電池
- モーター
- ケーブル

電動化で必要な銅やニッケルは大幅に増加

自動車一台当たりの資源使用量（kg）



出典：経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部「2050年カーボンニュートラル社会実現に向けた鉱物資源政策（令和3年2月15日）」より
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shigen_nenryo/kogyo/pdf/007_03_00.pdf

- I 企業情報
- II 事業紹介**
- III 成長戦略
- IV サステナビリティ
- V 業績・株主還元





銅鉱山

- 北米・南米・オーストラリアに6つの銅鉱山の権益を保有
- 高いコスト競争力、豊富な資源量、経験豊富なオペレーターとの良好な関係
- ケブラダ・ブランカ銅鉱山（チリ）はフル操業に向けて立ち上げ中

※生産量は100%ベース、2024年8月時点の計画

モレンシー銅鉱山（米国）



権益比率

FCX	72%
SMM	25%
住友商事	3%

銅生産量
32.8万トン/年

セロベルデ銅鉱山（ペルー）



権益比率

FCX	53.56%
SMM	16.80%
住友商事	4.20%
その他	25.44%

銅生産量
41.3万トン/年

ケブラダ・ブランカ銅鉱山（チリ）



権益比率

Teck	60%
SMM	25%
住友商事	5%
その他	10%

銅生産量
20.7万トン/年

カンデラリア銅鉱山（チリ）



権益比率

Lundin	80%
SMM	16%
住友商事	4%

銅生産量
16.3万トン/年

※オホスデルサラド銅鉱山との合算



金鉱山

- 菱刈鉱山は豊富な埋蔵量と世界トップレベルの高品位を誇る金鉱山
次世代の育成拠点としても活用。高い収益力で長期安定的に当社経営に貢献
- コテ金鉱山はフル操業に向けて立ち上げ中

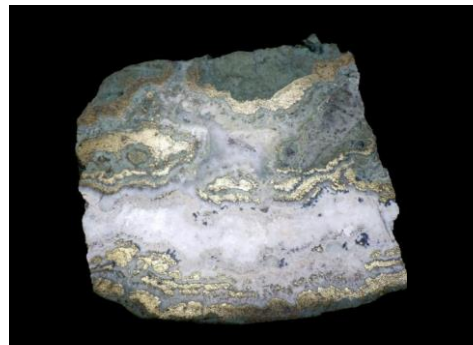
※生産量は100%ベース、2024年8月時点の計画

菱刈鉱山 (日本)



金販売量
4.0トン/年

- ・所在地：鹿児島県伊佐市
- ・1985年開山
- ・当社権益比率 100%



平均品位：約20グラム/トン

豊富な金埋蔵量：155トン

(2023年12月末時点)

コテ金鉱山 (カナダ)



金生産量
6.9トン/年

JV出資比率

IMG 約60.3%
SMM 約39.7%



2024年3月に生産された金ドーレ
(金と銀の合金で、金品位90%程度)







- 環境に配慮した効率の高い生産プロセスで高品質な銅地金を安定的に生産
- 長年の技術の積み上げによる高いコスト競争力
- 貴金属/レアメタルの回収やリサイクル(※)など資源循環を担うサプライチェーンの要

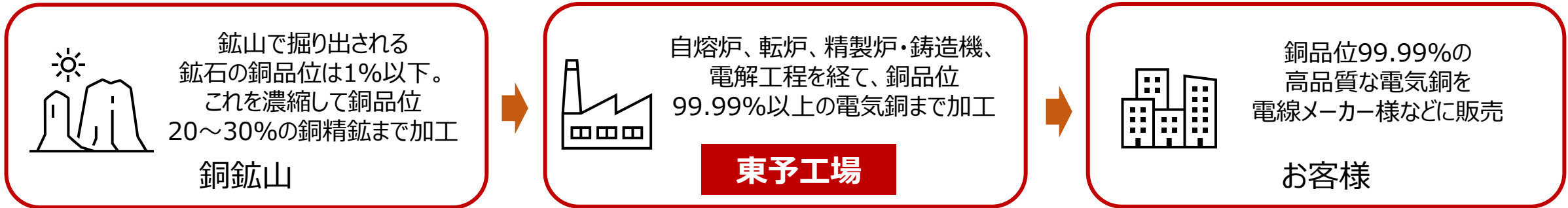


東予工場 (愛媛県)

電気銅生産量：45.3万トン/年

※2024年8月時点の計画

【※リサイクルの取り組み】
銅スクラップやE-スクラップ[®]（電子機器類の廃基板）
など、リサイクル原料からの有価物の回収も積極的に
推進



Ni ニッケル

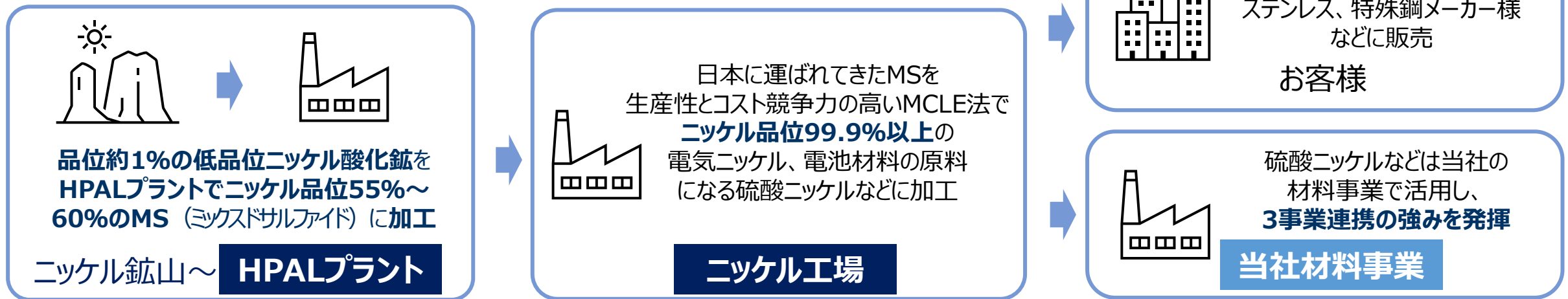
- 日本で唯一、電気ニッケル/電気コバルトを生産
- 生産性・コスト競争力の高いMCLE（マツト塩素浸出電解採取）法
- 世界に先駆け、High Pressure Acid Leach（高圧硫酸浸出/HPAL）の実用化に成功



- ・それまで利用できなかった低品位ニッケル酸化鉱からニッケルを回収する技術
- ・限りある鉱物資源の活用に貢献

電気ニッケル生産量：6.3万トン/年

※2024年8月時点の計画







車載電池向け正極材



スマートフォン向け
結晶材料



SOLAMENT™
(機能性インク)



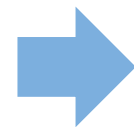
コンデンサ向け
ペースト

カーボンニュートラルへの動き

- ・ 自動車の電動化

デジタル社会の高度化

- ・ スマートフォン5G化
- ・ 車載電子部品の増加
- ・ IoTの進化



高機能材料の需要は大幅に増加

高品質・高付加価値の製品ラインナップで
カーボンニュートラル・デジタル社会の
高度化に貢献

日系車載用電池メーカー様との強いつながり 材料事業の技術蓄積を活かした新製品や新プロセスの開発力



車載用電池向け
ニッケル系正極材



リチウムイオン電池

ニッケル水素電池



電気自動車



ハイブリッド自動車

自動車電動化へ貢献

「SOLAMENT™」 (近赤外線吸収材料)

● SOLAMENT™とは？

- 当社が発明し、国内外で特許を持つ近赤外線吸収微粒子のCWO®をもとにした素材テクノロジー
- 太陽光などに含まれる「近赤外線」を吸収する特性がある
- CWO®の認知度を上げ、競争力を高めるべく、ブランディングによる差別化戦略を強かに推進、素材テクノロジーブランドとして「SOLAMENT™」を立ち上げ

● 新たな業界への参入を推進

- 日射遮蔽用途として既参入の自動車・建材市場に加え、アパレル、農業、美容といった業界への新規参入も推進（協業事例：ミズノ(株)、(株)AOKI等）



低炭素貢献製品として
GHG排出量削減に貢献

- I 企業情報
- II 事業紹介
- III 成長戦略**
- IV サステナビリティ
- V 業績・株主還元

長期
ビジョン

「世界の非鉄リーダー」を目指す

「世界の非鉄リーダー」とは

- 資源権益やメタル生産量において、グローバルでの存在感（=世界Top5に入るメタル）がある
- 資源メジャーでも容易に模倣できない、卓越した技術や独自のビジネスモデルを有している
- 持続的成長を実現し、安定して一定規模の利益をあげている
- SDGs等の社会課題に積極的に取り組んでいる
- 従業員がいきいきと働いている

長期
ビジョン

「世界の非鉄リーダー」を目指す

ニッケル 生産量 15万トン/年

銅 権益分生産量 30万トン/年

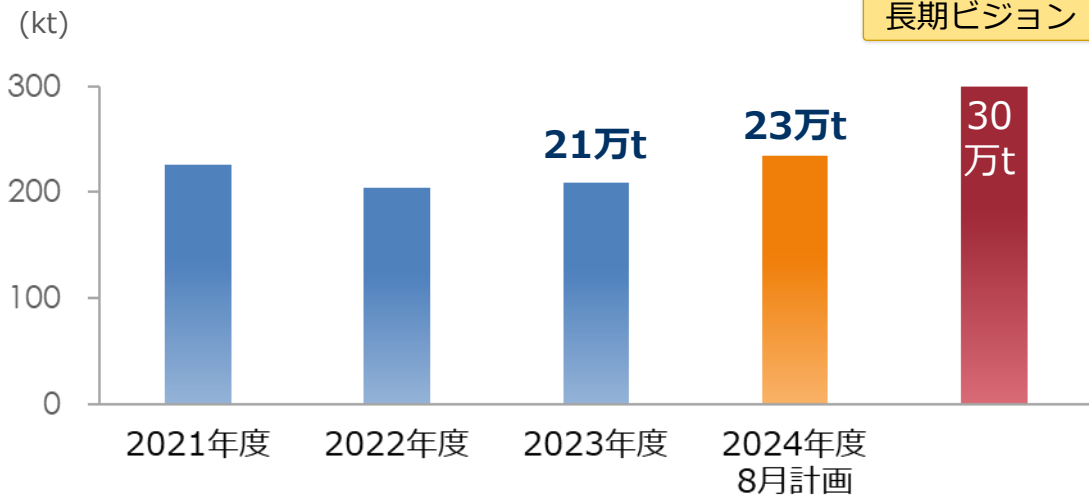
金 優良権益獲得による鉱山オペレーションへの新規参画

材料 ポートフォリオ経営による税前利益 250億円/年の実現

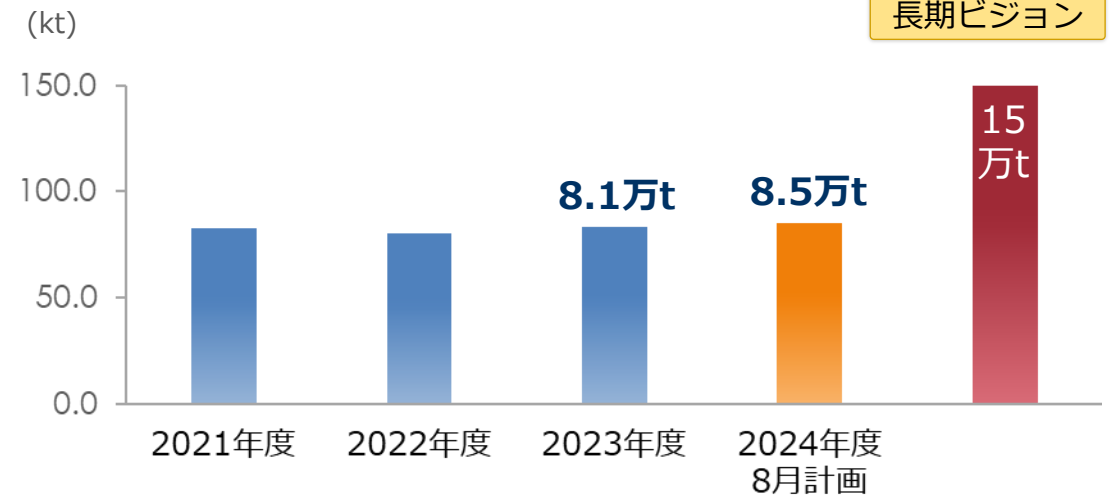
利益 親会社の所有者に帰属する当期純利益 1,500億円/年

ターゲット

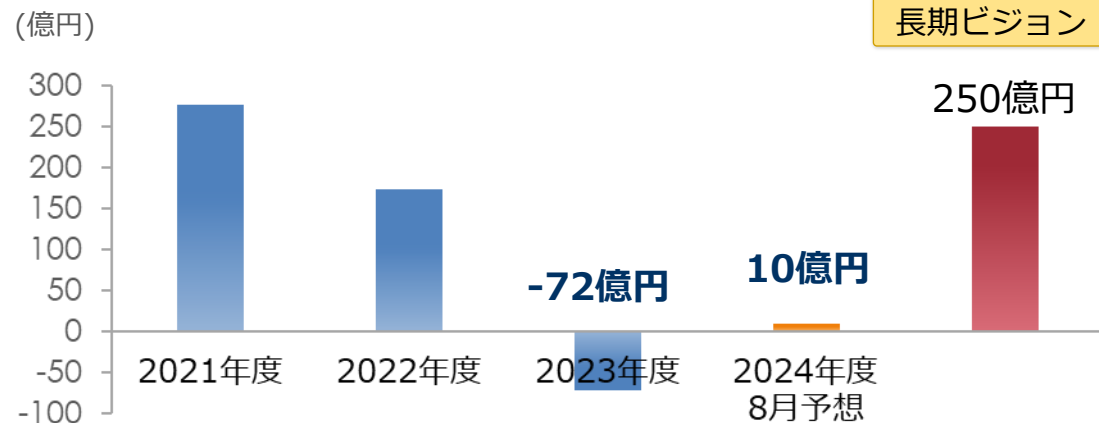
Cu (鉱山権益分生産量)



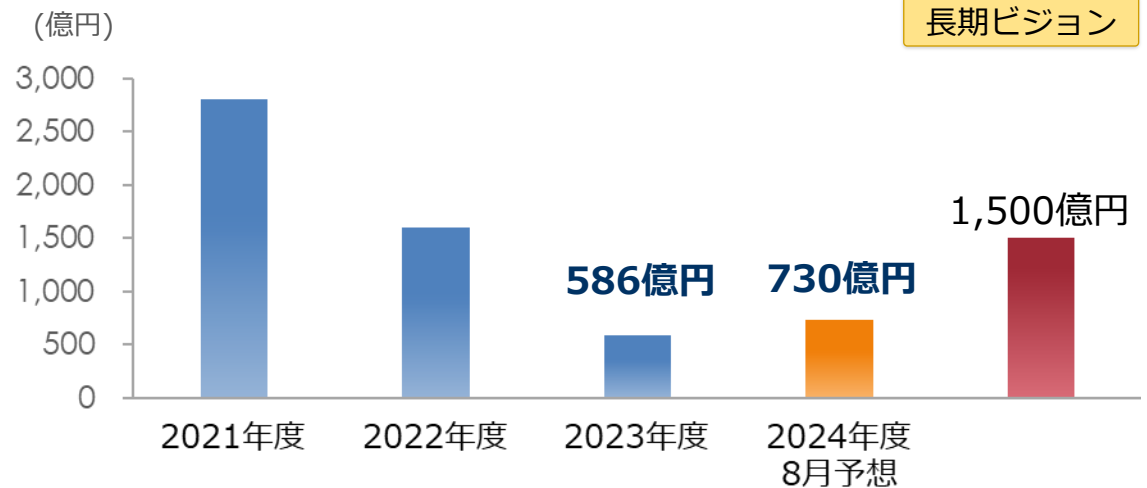
Ni (年間生産量) ※長期ビジョンは生産能力



材料事業 (セグメント利益)



当期利益 (親会社の所有者に帰属する)



4つの挑戦

挑戦1. 企業価値拡大 -大型プロジェクトの推進

- 電池材料（正極材）生産能力増強
- ケブラダ・ブランカ2（銅鉱山）プロジェクト
- コテ金開発プロジェクト

挑戦2. コアビジネスの持続可能性向上

- 3事業連携（ニッケル電池）のバリューチェーン強化
- 菱刈鉱山のサステナビリティ重視の操業への転換
- 銅製錬事業の競争力強化
- 機能性材料事業の拡大戦略

挑戦3. 社会環境変化への適応

- GHG（温室効果ガス）排出量削減
- カーボンニュートラルに貢献する製品・新技術・プロセスの開発推進
- DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応
- 人材確保・育成・活用への取り組み

挑戦4. 経営基盤強化

- 安全への取り組みの強化
- サステナビリティ施策の推進加速
- コーポレートガバナンス

電池材料（正極材）生産能力増強

新居浜工場 2024年4月上旬撮影

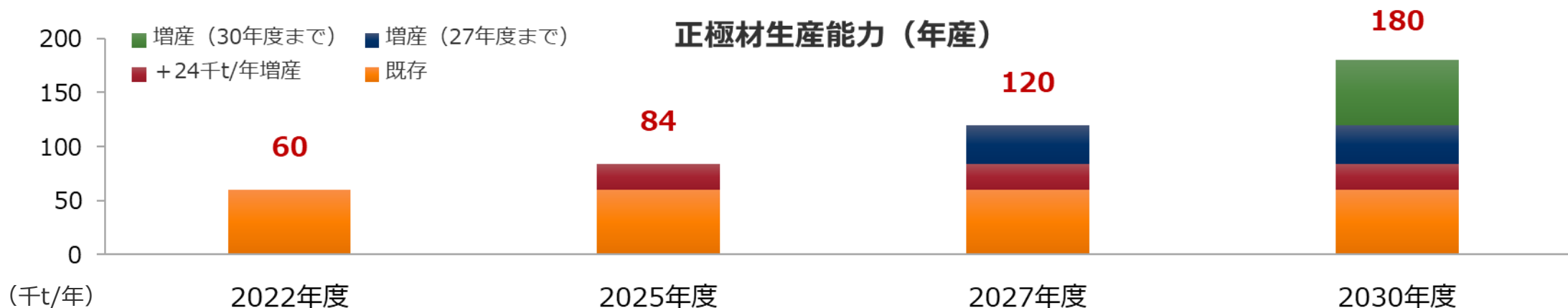


◆ニッケル系正極材 + 2万4千t/年増産

電池材料（正極材）の需要増に応え、新工場を建設中
生産能力は**40%アップ**（6万トン/年→8万4千トン/年）
2024年度第4四半期から生産開始

◆次期増産に向けた検討状況

- ・ **リン酸鉄リチウム（LFP）正極材**の新量産プロセスの研究開発中
→地政学リスクの分散・サプライチェーン多様化の動きからLFP正極材の引合いが増加
- ・ 次世代電池として期待される**全固体電池向け正極材**の研究開発も継続



Cu
銅

ケブラダ・ブランカ銅鉱山 (チリ)

- 2024年のフル操業達成にむけ設備の立ち上げ中
- 2025年以降は、年間28.5万トン程度の生産を見込む（100%ベース）
- マインライフ：約28年（2022年時点）

高い競争力と世界トップクラスの生産量が期待される銅鉱山

膨大な資源量があり、拡張を検討中

当社製錬事業の原料確保に大きな安定感

権益比率	Teck	60.00%
	SMM	25.00%
	その他	15.00%



鉱山近影



AU
金

コテ金鉱山 (カナダ)

JV出資比率	IMG	約60.3%
	SMM	約39.7%

- 2024年末の設計能力90%到達に向け設備の立ち上げ中
- 2025年以降の生産量は最大年間15トン程度を見込む（100%ベース）
- マインライフ：約18年（2022年時点）

年間生産量は直近数年間に開発された金鉱山の中では上位

コスト競争力もトップクラス

隣接する地域でも多くの資源量が確認されており、プロジェクトの価値向上に期待



サイト全景



自律走行のトラックが稼働



鉱石処理エリアの建屋内

■ 2030年度目標 低炭素貢献製品GHG削減貢献量の拡大 60万トン-CO₂以上

- ・ 車載用電池正極材料
 - ・ CWO®(車載ガラス用)
- ≫ 2023年度実績 57万トン-CO₂/年

■ 開発中の低炭素貢献製品

【 SiC (シリコンカーバイド) 】

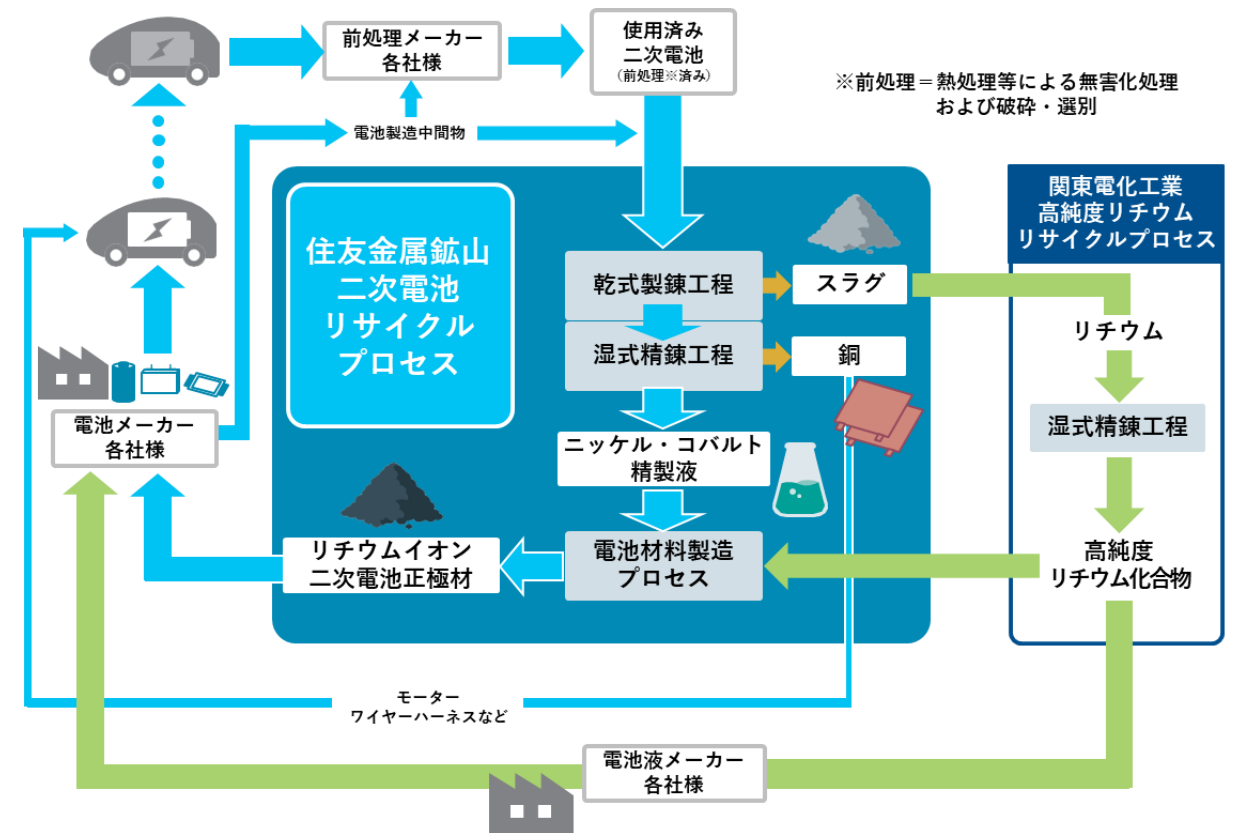
- ・ SiCは主に電力を制御する用途で使用されるパワー半導体に使われる半導体材料
- ・ 近年では電動車の駆動制御装置で求められる大容量領域で、電動車の航続距離の延長に貢献できる製品として注目
- ・ 従来のシリコンと比較し、高電圧に対応可能でエネルギー損失も大幅に低減できる
低炭素貢献製品

低炭素貢献製品の例

	小 ← 最終製品内のSMM材料の寄与率 → 大		
量産中	<ul style="list-style-type: none"> Ni粉 磁石 銅ポリ 	<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">CWO</div>	<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">電池用正極材料</div> <p>低炭素貢献製品 (現行)</p>
量産準備中		<div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">SiC</div>	<div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">LFP</div>
研究・開発段階		<div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">低炭素貢献製品 (候補)</div>	<div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">水素製造関連 ・酸化ニッケル ・スカンジウム ・光触媒</div>

3事業連携（ニッケル－電池）のバリューチェーン強化 リチウムイオン二次電池（LIB）リサイクルプラント建設中

- ◆ 使用済みLIBセル換算で約1万トン/年の処理能力を有し、2026年6月に完成予定
- ◆ 乾式製錬・湿式精錬を組み合わせた独自の技術により、使用済みLIBを効率的に分離処理し、銅・ニッケル・コバルトを回収して再資源化
- ◆ 国内の主な商社やスクラップ中間処理会社とパートナーシップ協定を締結し、今後の原料集荷等の協業関係を構築
- ◆ 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「グリーンイノベーション基金事業」として採択（2022年4月）



サステナビリティ

- I 企業情報
- II 事業紹介
- III 成長戦略
- IV サステナビリティ**
- V 業績・株主還元

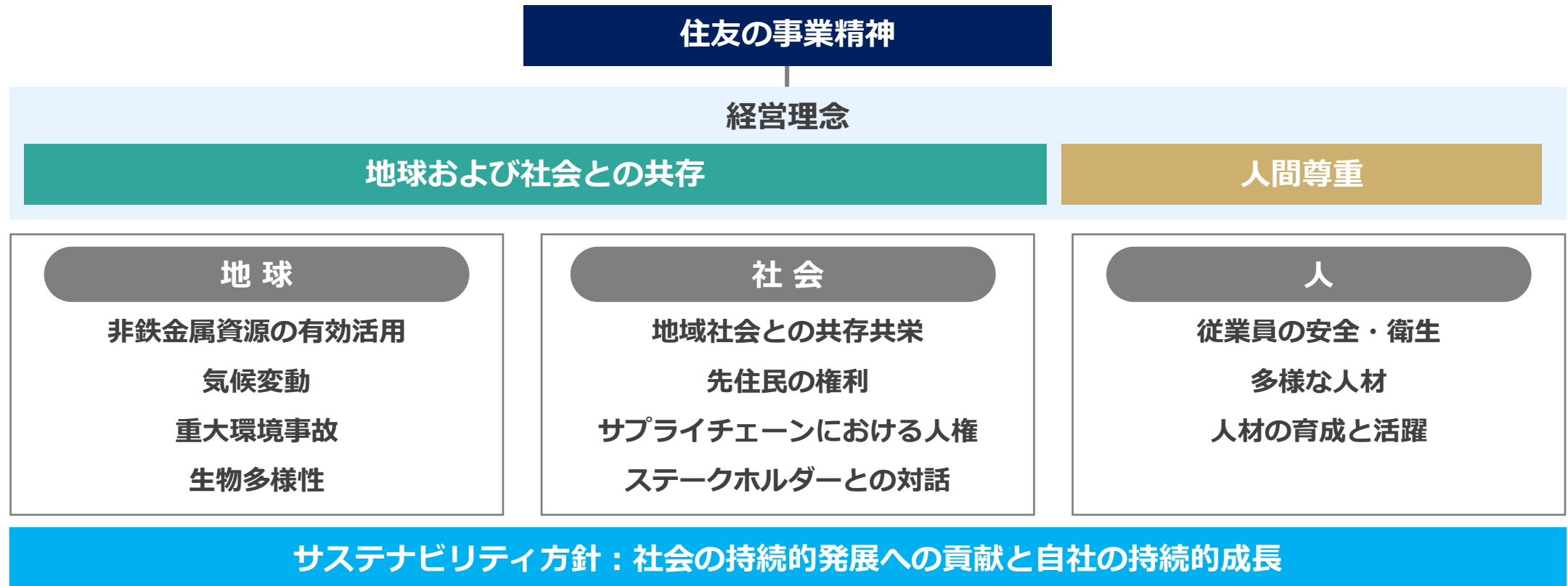
当社事業の創業以来引き継がれてきた事業精神

[第1条] わが住友の営業は**信用を重んじ、確実を旨とし、**
もってその鞏固隆盛を期すべし

[第2条] わが住友の営業は**時勢の変遷理財の得失を計り、**
弛張興廃することあるべしといえども、
いやしくも浮利に趨り軽進すべからず

(昭和3年 住友合資会社社則「営業の要旨」より抜粋)

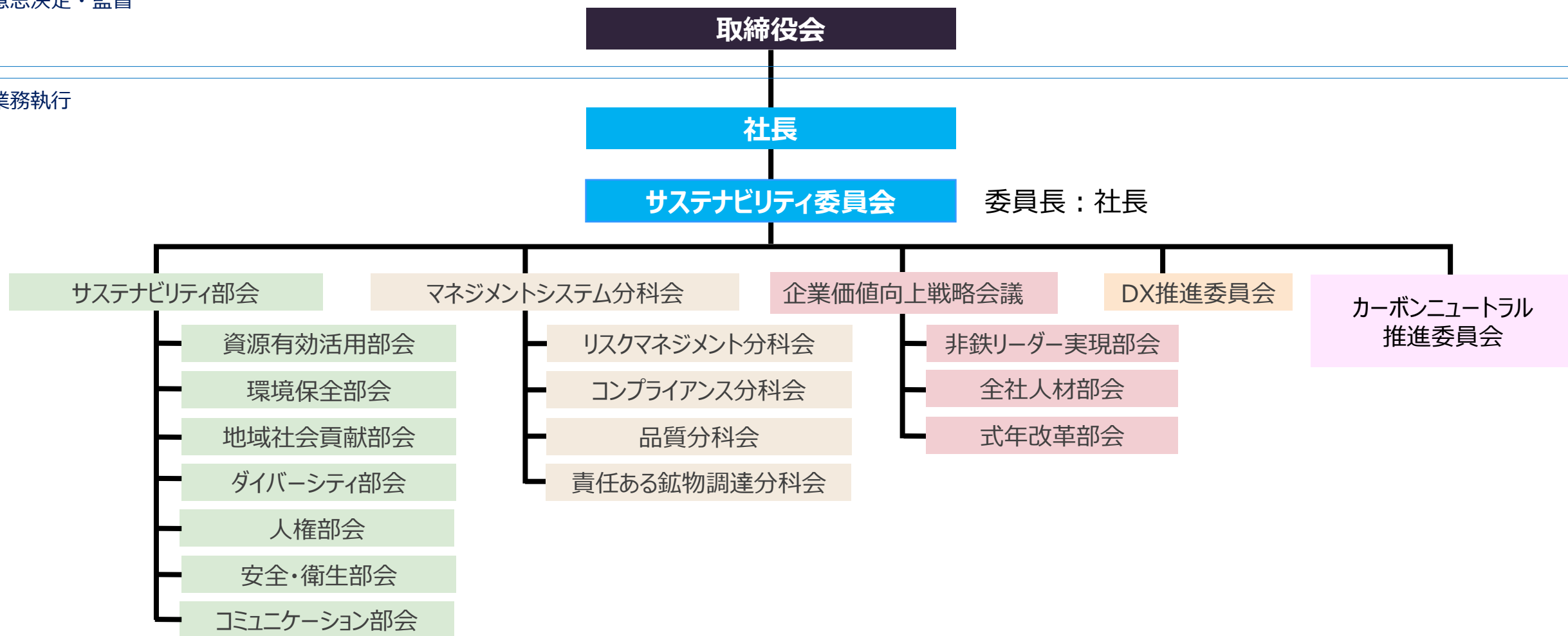
住友の事業精神に基づき定めた当社の経営理念「**地球および社会との共存**」「**人間尊重**」を通じ、社会的な信用や相互の信頼関係を大切にしながら、**社会の持続的発展**と**自社の持続的成長**の両立を目指す



社長を委員長としたサステナビリティ委員会を中心にサステナビリティ活動を推進

意思決定・監督

業務執行





「写真提供：住友史料館」

明治時代、植林前の別子銅山



「写真提供：住友林業株式会社」

現在の別子銅山

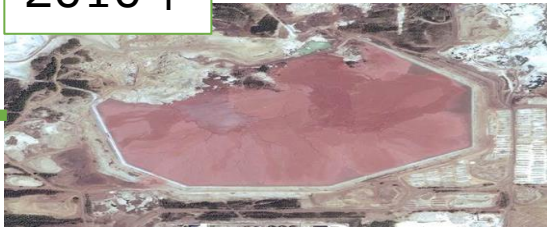
このまま別子の山を荒蕪するにまかしておくことは、天地の大道に背くのである。どうかして濫伐のあとを償ひ、別子全山をあをあをとした姿にして、之を大自然にかへさねばならない。

—伊庭貞剛（第二代住友総理事）

● 地域社会との共存

社会的操業許可（ソーシャルライセンス）は当社事業の大前提

2010年



2013年



フィリピン鉱物産業界において
榮譽ある多くの賞を継続的に受賞



ステークホルダーと対話を行い
支援内容を毎年決定



地域住民への無料診察
プログラム



地域の学校運営支援

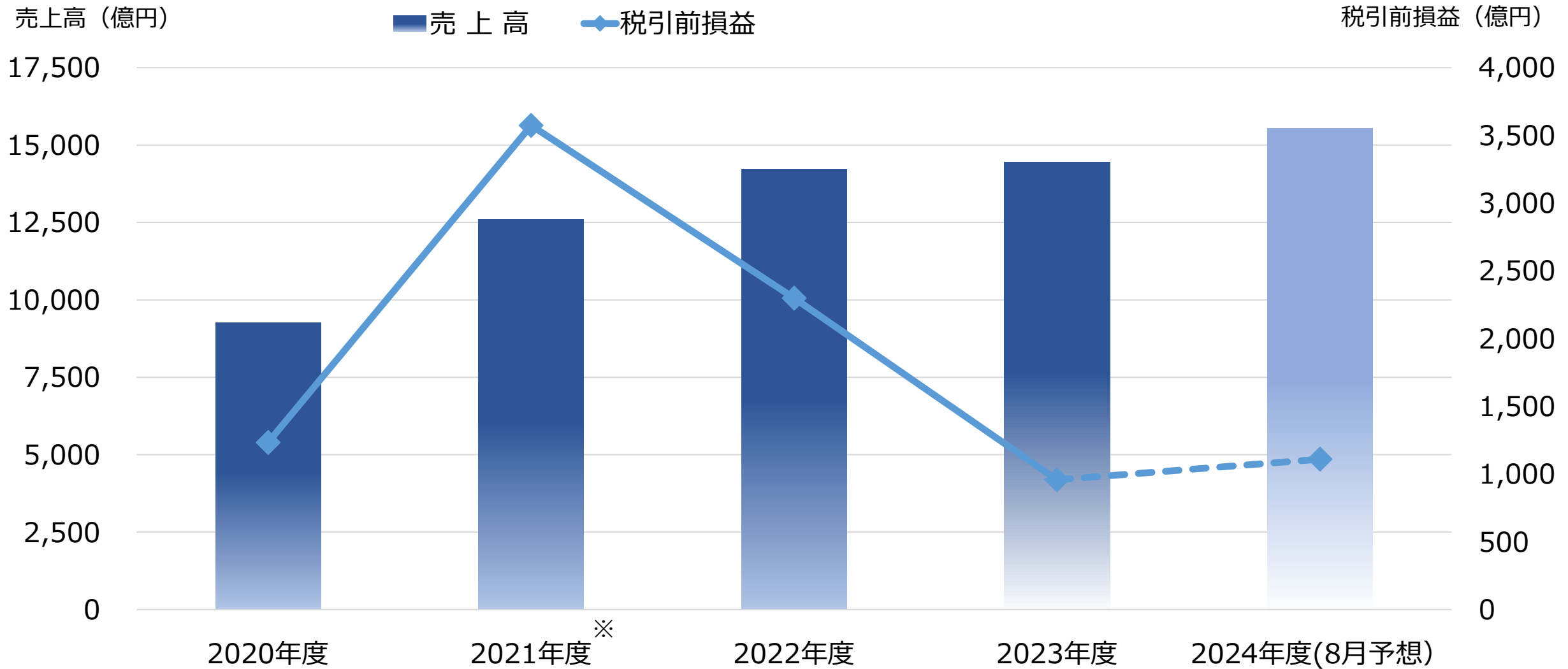
- I 企業情報
- II 事業紹介
- III 成長戦略
- IV サステナビリティ
- V 業績・株主還元**

成長戦略の推進、効率経営の追求

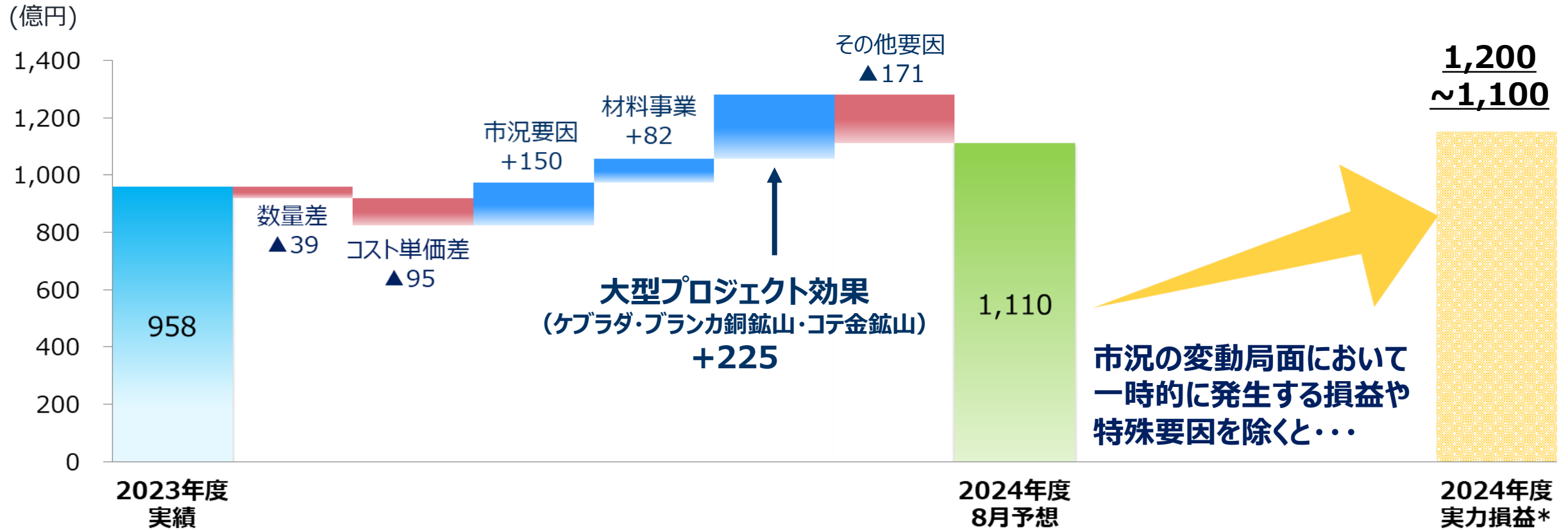
- ◆ 大型プロジェクト（ケブラダ・ブランカ銅鉱山、コテ金鉱山、電池材料増産）の確実な立ち上げ
- ◆ 21中計投資の着実な実行（電池リサイクル、SiC他）
- ◆ ROCE経営の推進（投資回収基準強化、資本効率向上）
- ◆ 長期的な成長ストーリーの実現が期待できる事業ポートフォリオ

非財務情報開示の充実、ステークホルダーとの対話

- ◆ 新人事制度の浸透、事業を支える人材マネジメント
- ◆ サステナビリティ課題への継続的な取組
- ◆ 情報発信力強化（実力損益など事業特性をふまえた説明、長期的な成長ストーリー）
- ◆ 対話から得られたフィードバックを企業価値向上に活用

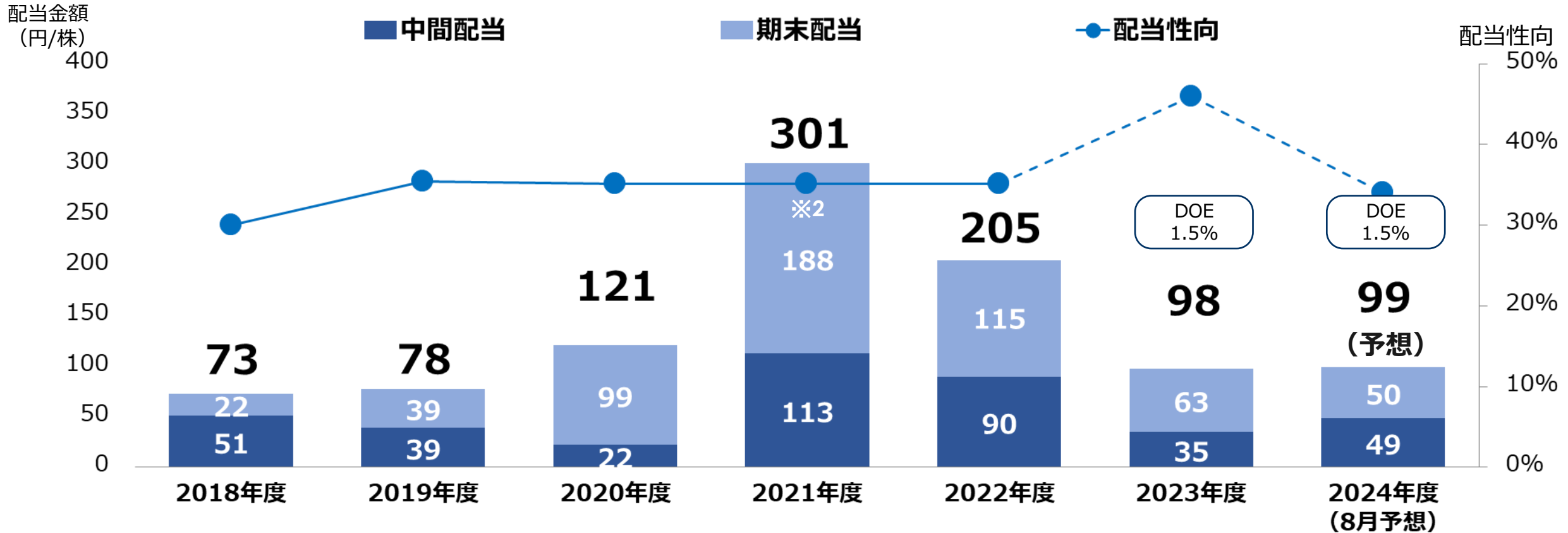


- 2024年度は、2つの大型プロジェクトからの収益貢献を見込み増益の予想
- 市況の変動局面において一時的に発生する損益、および当該期間の特殊要因の影響を除いた2023年の実力損益*は1,200～1,100億円



* 実力損益：実績および予想値から、金属価格および為替の変動局面において一時的に発生する損益、および当該期間の特殊要因の影響を除いたもの

＜21中計期間＞ 年間配当性向 原則35%以上 下限指標はDOE1.5%※1



※1 下限指標であるDOE1.5%は2023年度の配当より適用

※2 2021年度の配当性向はシエラゴルダ譲渡に関する調整分を除いて算出

(億円)

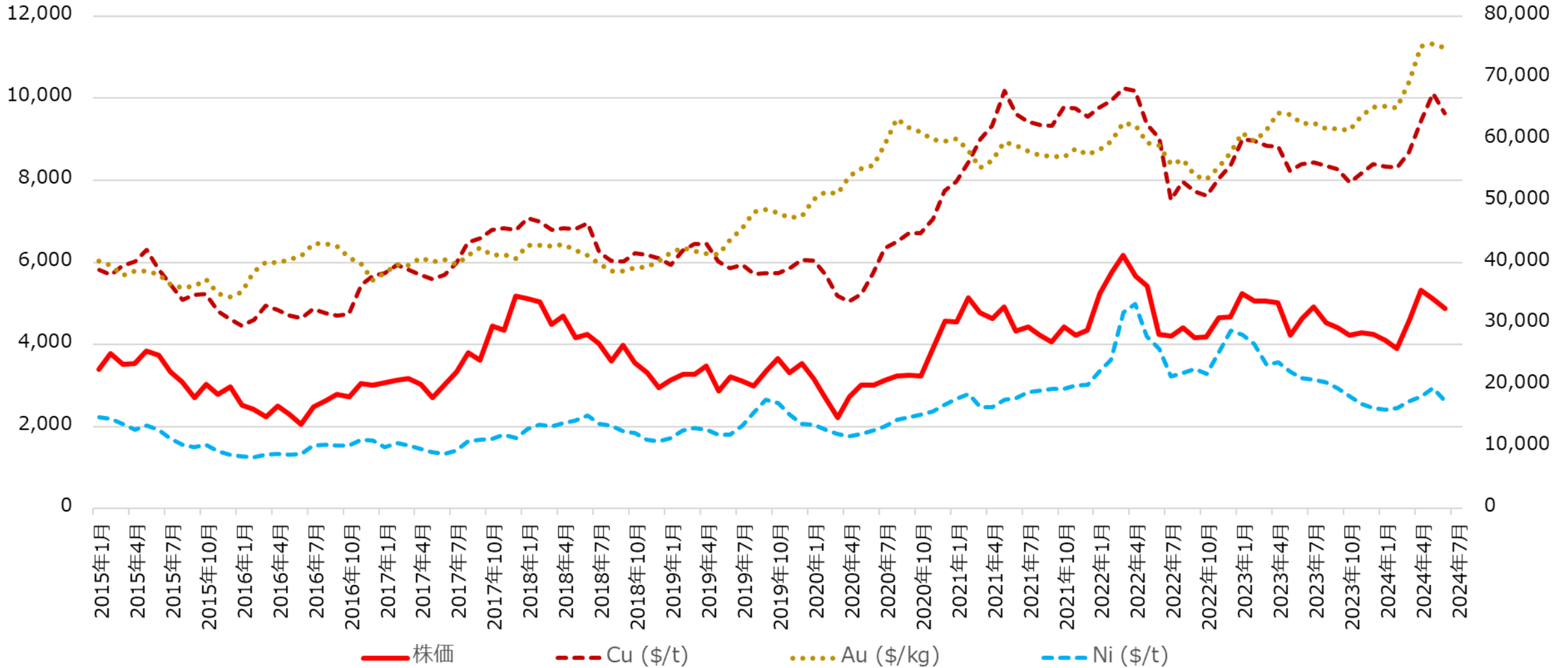
要素	変動幅	2024年度 税引前利益
銅 (Cu)	±100\$/t	36
ニッケル (Ni)	±10 ¢ /lb	17
金 (Au)	±10\$/toz	3
為替レート (円/\$)	±1円/\$	11

当社の業績に円安と金属価格の上昇はプラス効果

当社株価と金属価格の推移

当社株価 (円) & Cu価格 (\$/t)

Au (\$/kg) & Ni価格 (\$/t)



決算日	3月31日
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京（東証プライム）
業種	非鉄金属
証券コード	5713
株式売買単位	100株
株式の状況	発行可能株式総数：500,000,000株 発行済株式の総数：290,814,015株

株価	3,642円/株
時価総額	1兆591億円
配当利回り	2.72%
PBR 株価純資産倍率	0.54倍
PER 株価収益率	13.71倍
EPS 1株当たり当期利益	265.69円

※2024年8月9日時点

1

430年の歴史

住友グループの源流事業
を受け継ぐ会社

2

日常生活と経済発展
に必要不可欠

非鉄は成長産業

今後とも需要は↗

3

資源 × 製錬 × 材料

3事業連携

世界でも類を見ない
ユニークなビジネスモデル

4

世界の非鉄リーダーへ

サステナビリティを重視

5

健全な財務体質を維持しつつ
配当性向原則35%以上
下限はDOE1.5%

資源 × 製錬 × 材料で
未来をつくる

MINING THE FUTURE 





MINING THE FUTURE

【ウェブサイト 個人投資家のみなさまへ】

<https://www.smm.co.jp/ir/investor/>



ニュースメールで情報発信中。
是非ご登録ください。

【お問合せ先】

広報IR部：03-3436-7705

ウェブサイトお問合せフォーム：<https://www.smm.co.jp/contact/>